

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895600104		
法人名	社会福祉法人 青丘		
事業所名	グループホーム青い丘		
所在地	〒319-0101茨城県小美玉市橋場美14番地の1		
自己評価作成日	令和 5年 3月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年6月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=0895600104-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和 5年 5月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日笑顔で利用者様と接している事。困りごとがあれば寄り添い話を聞く事で利用者様を安心させることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体である医療機関にほど近い敷地内に立地し医療体制が整うなか、同法人の特別養護老人ホームやデイサービス等が立ち並んでいる一角にあり、事業所間で協力連携しながら支援を展開している。庭には自家菜園の畑があり、新鮮な農作物の収穫を楽しむことができる。開設して2年目の事業所であり、管理者は熱心に利用者へ寄り添う支援を心掛けている。家族等への連絡をこまめにとり、信頼関係の構築によく努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生きる喜びを地域の方と感ずることが出来る場所でありたいとの理念を抱え、職員ミーティングでさらに理解を深めるとともに意見交換を活発に行うよう努めています	今までの理念に「地域の方々と」の文言を加えた。利用者が歩んできた人生を理解し、寄り添い、時間をかけて話を聞くなどして安心して過ごしてもらえるような支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により中々地域の方々とふれあいがなくなってしまっているのが現状です	庭を散歩し、高齢者住宅の住民と挨拶を交わしている。同法人の隣接するデイサービスの利用者と合同でカラオケを楽しんでいる。今後はボランティアの受入れを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今まで支援してきた介護方法等地域に活かせる機会を持ち還元していきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ過の為書面にての意見を伺い、ご要望やご意見は真摯に受け止めサービス向上に活かす努力をしています。	定期的に書面開催して、議事録は家族等に郵送している。委員には電話で意見をもらうなどしている。委員である家族等から外出支援の希望があり、感染予防に配慮しつつ希望に沿えるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員とコロナ過での活動や面会等を相談し、また、困難なケースの入居者等についてもこまめに連絡するなど行っています。	市役所の担当課とは書面での情報交換をするほか、生活保護受給の利用者について、市ケースワーカーと連携し、協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に勉強会を開催し、何故身体拘束してはいけないのかを学習している。また、年4回委員会を開催している。身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束排除のための指針を作成し、2ヶ月ごとに委員会を開催している。研修会を行い、伝達研修も行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合に備えての経過観察記録や再検討記録などの書類の整備を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修を行い虐待防止の意識もち虐待が見過ごされることがないように注意している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度利用の申請中である利用者もおり日常生活自立事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等を等の不安や疑問点をお尋ね十分な説明を行い理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会や運営推進会議で意見を聞いています。利用者の活動状況や心身の状況を記載し写真を添え、コミュニケーションを図っています。コロナ過で面会は時間の予約などでこなえています。	重要事項説明書に苦情受付窓口を明記し、入居時に説明している。面会時などに家族等とは細かく話をするようにしている。意見は管理者が受け、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から利用者とコミュニケーションを図るよう心がけている。代表者は定期的に訪問し管理者や職員と意見交換を行い運営への反映に努めている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、申し送り時にも意見を聞いている。行事やレクリエーションの企画に関しては担当制にして自由に意見やアイデアが取り入れられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務時間ややりがいなど各自向上心をもって働けるよう職場環境、条件の設備に努めている。昇給・賞与		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人一人のケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことをすすめている。入社時及び定期的な研修を年間計画に沿って実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外研修や勉強会の他法人の研修会に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話しする機会を密にとり不安感が少なるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で家族等が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾けながら関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始をする段階で丁寧にアセスメントを行い本人と家族等がその時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身では出来ない部分のみの支援にとどめてることで自身で出来ること坦うことの自身ややりがいを持ち支援する側される側との良好な関係が構築できるよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてからも馴染みの人や物の関係を重視しており、これまで使っていたものの持ちこみや、御家族様、友人の面会等支援しています。	フェイスシートを作成している。前担当者からの引き継ぎや家族等からの話で確認を行っている。年賀状のやり取りや電話の取次ぎなどを支援している。通い慣れた眼科や歯科に家族等と通院している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い居場所や席順の工夫をしたり、良好な入居者の関係が保てるよう職員が間に入り声掛けをしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら必要に応じて本人家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、利用者の発せられる言葉や表情、行動から思いや意向を把握するように努めています。利用者だけではなくご家族の訪問時にも、希望や意向をお聞きし情報を得るようにしている。	日常の会話の中で、利用者の行きたい所や食べたい物などを聴いたり、思いを把握している。表出の難しい方は、職員のほうから様々な言葉をかけて、表情を観察してくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにてこれまでの生活歴やこれまでの暮らしを把握しこれまでの生活の延長での生活ができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の過ごし方心身状態有する力等の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には日々の関わりの中で思いや意見をくみ取り、家族には面会時に意向やアドバイスを頂き反映させるように努めています。職員間では会議やカンファレンス、計画作成担当者を中心に利用者の心身状況の変化に合わせて支援している	3か月ごとにモニタリング評価を行っている。利用者や家族等の意向を確認して、日々の記録を申し送りノートに記した利用者の意向や記録を中心に、担当者会議を行い、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の管理日誌や個人記録などを積み重ね、引継ぎの際に共有したり、相談するなど現状に努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人の行動の背景を理解するようにし、そのうえで柔軟な支援を行う姿勢を大切にします。可能性を引き出し、柔軟な対応をすることが良いケアとなることも多く見られるため、いろいろ試す形をとっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は新型コロナウイルスの影響により、利用者を外出させることが出来ませんでした		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関だけでなく、ご家族様の意見を聞きかかりつけの医療関係を確保しています。また、歯医者には必要に応じて往診をお願いしています	2週に一度定期受診して血液検査などを行っている。病状に応じて毎週の受診も行っている。家族等には電話で報告を行っている。訪問看護師が週1回来訪し健康チェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護との連携により、さらなる協力体制を確立しています。変わりごとがあればその都度相談しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至るまでの状況を職員が直接伝える、さらにサマリ等で報告している。また、本人の意向家族の意向を確認し代弁している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気の重度化や高齢のためにおきる状況も予測し、早い段階から本人家族主治医と話し合いの機会を設け看取りは行わない方針を共有している	看取りは行わない方針であることを契約時に説明して同意を得ている。重度化した場合には医療機関と連携し、対応する協力体制ができています。今後急変時対応の研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、職員の見える箇所に提示してあります。また、ヒヤリハットを普段から沢山出す事で事故の発生時のシュミレーションや事故を未然に防ぐことを行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行っている。自主点検票を作成をし、夜勤者1名の為訓練を行うたびに避難訓練の大変さを実施しており、絶対火災を出さないための防火策が重要。また、火災時の備蓄も備えている。定期的に防火設備の点検を行う	夜間想定を含む避難訓練を行っている。近くのグループホームと合同で行い、訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。災害に備えて食料品を台所に置き、常に賞味期限等をチェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話をさせて頂いているとの精神で1人1人の人格を尊重し、その方の正確等把握し誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応を行っている	名前は必ずさん付けで呼ぶなど配慮し、管理者は利用者の尊厳を守る言葉遣い職員と話し合っている。人権尊重や守秘義務について研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服やおやつを選んで頂く等、自己決定できる場面をつくっているが、自己決定して頂ける場面はまだまだあると思われ今後さらに取り組んでいきたい		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の体調・気分を把握し、その日どのように過ごしたいか本人の希望そった支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、本人の好む服装や身だしなみやおしゃれができるよう支援している。2か月に1回訪問理容室により希望の髪形にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳、テーブル拭きなどできる人には行ってもらっている。月1回のおやつ作りでは、職員と一緒に作りながら共に食卓を囲み楽しい雰囲気づくりを心掛けている	利用者の好物や苦手なものは一覧表にして台所に掲示している。代替品も準備している。利用者はテーブル拭きや下膳など、できることを職員と一緒にしている。月1回の利用者とのおやつ作りは季節を感じるものを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が進まない人には、おにぎりや丼ものにするなど食べやすいよう、又視覚的にも工夫している。むせや、飲み込み困難な方にはトロミや刻み等形態の工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。自立された方、そうではない方といらしゃいますが、その方にあった物品、やり方を支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録を付け個々の排泄パターンにあった誘導のタイミングで声掛けをし、失敗なくトイレでの排泄ができるよう支援していきたい	自立している利用者が多いため、さりげない声掛けで誘導しトイレの外での見守りを行っている。水分補給や運動で排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に繋がるよう乳製品やブルーオリゴ糖の摂取を勧めたりしてなるべく下痢にならないようケアしている。日常の中で散歩や水分補給の声かけをしている。毎日排便の有無の確認		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を基本としています。その日の体調や気分に合わせて臨機応変に対応しています。	入浴は基本週2回としているが利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。個別に好みの入浴剤を聞いて色や香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズム体調の把握に努めている。その人のペースを大切にしたいが昼、夜逆転にならぬよう日中の活動性をあげるための声かけをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を整理したファイルがありいつでも内容を確認できるようにしている。処方の変更した際は、副作用等の観察を行うよう伝達している。服薬もれや誤投与のないよう職員間で声出しダブルチェックをしてから投与している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人の一人の生活歴や得意分野を把握し、負担にならない程度の作業を頼み感謝の言葉を伝えている。編み物やおやつ作りなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルスの影響により外出は行えていませんが、落ち着きを戻したらお花見などを計画しています。	職員と散歩に出かけるほか通院時に外出をして気分転換をしている。ドライブに行きたいとの希望が出ており、これから外出の機会を増やしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、御家族様に依頼し、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙、面会等は御家族様と相談しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七草粥や季節の感じられる料理や、雑人形、クリスマスツリー等季節がわかりやすい飾りなどを利用者と一緒に飾りをする等家庭にいるような環境作りに努めています。	玄関は明るく、出入りしやすいように段差がない造りである。リビングであるホールは、窓が大きくて明るく、テレビがありくつろぐことができる。庭では利用者と職員が野菜等を造って収穫を楽しんでいる。廊下に掲示された写真や季節の飾り付けが家庭的で暖かい雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でそれぞれの居場所を確保されている利用者も多い反面、限られたスペースの中で居場所を求めて利用者でトラブルになることもあり状況に応じて工夫や対応をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談しながら、なるべく使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地の良く過ごすような働きかけをしています。家族の写真など飾り、過ごしやすい空間作りを支援しています	利用者の好きなものを 利用者の好みに合わせて配置している。ベッドや家具の位置は、希望に応じて動かしたりする。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の清潔や衛生を保持し、薬剤等注意の必要な物は利用者の目の届かないところに保管している		